

千葉県浦安市の沖積粘性土を対象とした地震後の長期沈下の実測

清水建設株式会社

濁川直寛, 浅香美治

キーワード

① 地盤沈下

② 沖積粘性土

③ 水準測量

本研究の目的は、2011年東北地方太平洋沖地震に伴う沖積粘性土地盤の長期沈下の実測と、実測データに基づいた沈下傾向の把握である。著者らは、沖積粘性土が厚く堆積する千葉県浦安市を対象として、沖積低地から埋立て地を南北に縦断する2測線を設定し、地震発生以来2年間にわたって地表面沈下を実測した。その結果、南部の埋立て地において、地震後に広範囲にわたる継続的な沈下が生じていることを明らかにした。この沈下速度は7mm/yearであり、地震前の埋立てによる圧密沈下速度3mm/yearの2倍以上にあたる。一方で、埋立て造成時に圧密促進工法が施工された範囲では、未改良の範囲と比べて地震後の沈下が抑制される傾向にあることを示した。